

科目名/提供大学名	女性学入門
科目名(英文)	Introduction to women's studies
対象学年	原則として、全学年。
開講時期	前期
単位数	各大学の扱いに委ねる。
科目区分	原則として、選択。
授業形態・開講形態	講義
担当教員名	武内 昭子
オフィスアワー	必要があれば、講義の前後に質問等を受け付けます。
教員メールアドレス	akitake5963@yahoo.co.jp
概要	社会には「男性／女性」といった二分法に基づく性差の枠組みが、非常に見えにくい状態で存在しています。授業では家族、恋愛、男女のコミュニケーションといった身近な話題から、労働、法律、社会保障政策といったマクロな問題まで取り上げます。それらを通して、私たちの性差をめぐる思い込みや固定的な性別役割意識が、社会制度の中でどのように制度化、法制化され、それらが日常生活にどのような影響を及ぼしているかについて学習します。
学習・教育目標との関連	各大学の目標との関連は、科目の提供大学側では書けないと思われます。
授業目標・目的	この授業を受講しても「女子力」が身についたり、女性の気持ちが変わり女性にもてるようにはなりません。しかし、私たちがとりまく性差別構造を学習することで、社会がなぜ女性に「女子力」を求めるのかを理解できたり、性差別に悩まされている女性へ共感できるようになるかもしれません。また、授業で取り上げる様々な法律(憲法、民法、その他労働法)やメディアの分析を通して、リーガルリテラシーやメディアリテラシーなどのスキルが得られ、社会人としての基礎的知識や教養を身につけることができます。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input type="checkbox"/> 選択能力 <input type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	① 性差の枠組みを見抜く力(ジェンダーに敏感な視点)を習得する。 ② セックス／セクシュアリティ／ジェンダー・アイデンティティとの関係を理解する。 ③ 社会に存在する性差別構造や性差別意識に気づき、男女平等社会のあるべき姿について考える。
授業計画・授業内容	第1回:【オリエンテーション】 本講義の目的と内容についての説明とクイズ、アンケート 第2回:【多様な性】 女子力、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ、LGBTなど 第3回:【フェミニズム(女性解放運動／思想)(1)】 欧米、日本のフェミニズムの歴史の変遷 第4回:【フェミニズム(女性解放運動／思想)(2)】 母性保護論争、女性学の誕生について 第5回:【教育、スポーツとジェンダー】 隠れたカリキュラム、教科書の中のジェンダー・バイアス、スポーツの中のジェンダーなど 第6回:【労働とジェンダー(1)】 男女雇用機会均等法、男女賃金格差、セクシュアル・ハラスメント、マタニティー・ハラスメントなど 第7回:【労働とジェンダー(2)】 女性活躍推進法、ワーク・ライフ・バランスなど 第8回:【前半のまとめと中間テスト】 テスト(60分) 第9回:【男女共同参画社会】 政策・方針決定過程への女性の参画、男女共同参画社会など 第10回:【家族とジェンダー(1)】 変わる恋愛、結婚、子育て事情、性別役割分業など 第11回:【家族とジェンダー(2)】 介護、高齢者問題など 第12回:【暴力とジェンダー】 親しい間柄で起こる暴力(デートDV、ストーカー行為など) 第13回:【コミュニケーションとジェンダー】(DVD上映あり) 男女のコミュニケーションの違いと特徴 第14回:【メディアの中のジェンダー】 CMなど映像文化の中のジェンダー(CM上映あり) 第15回:【後半のまとめと期末テスト】 テスト(60分)
授業方法	担当講師による講義のほか、映像(DVD、CM)の上映もあり。受講生が少数の場合は、グループディスカッションもあり。
キーワード	ジェンダー、フェミニズム、セクシュアリティ、ドメスティクバイオレンス(DV)、セクシャルハラスメント
教科書	なし
参考書	なし
評価方法・評価基準	授業後の感想、授業への積極的参画と出席率(30%)、中間・期末テスト(各30%)、ミニレポート(10%) * 欠席は4回まで。5回以上休んだ場合、単位取得はできません。

関連科目	社会学、心理学、経済学、法学など
履修の要件	講義やワークショップに積極的に参加すること。
必要な事前・事後学習	身のまわりのあらゆる出来事が「女性学」の研究対象となるので、授業でとりあげる概念やジェンダーの視点をういて、社会事象を読み解くことができるよう、普段から心がけてください。
その他・注意事項	私語や携帯電話の使用など、他の受講者の迷惑となるような行為は慎んでください。 公休を取得したい場合は、事前に講師に申し出てください。